



## 日本栄養士会：JDA-DAT（災害支援チーム）活動記録

日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）は、保健医療活動チームの一組織として、多職種チームとの連携協働、及び管理栄養士など行政栄養関係者の関与の下、地域や避難所の実情を十分に考慮した栄養・食支援活動を継続的に実施することを責務とする。

## 発生直後の対応

1月2日 JDA-DAT先遣隊派遣。石川県栄養士会：石川県健康推進課と協議。

日本栄養士会災害対策本部設置。（2日20:30）

1月3日 特殊栄養食品ステーション設置（七尾市）。JDA-DAT号七尾市内に配備。

公立能登総合病院へ液体ミルク搬入。また能登北部地区避難所へも届ける。

1月4日 賛助会員企業へ支援物資提供依頼、搬送調整。

埼玉県栄養士会からもJDA-DAT号とともに3名が現地入り。

3日間支援活動を行う。



## 発生直後から数日後の栄養・食支援活動の課題

避難生活の長期化に伴い、エネルギーや栄養素の摂取不足の影響による**栄養不良**や**体力低下**が著名になる。栄養不足の回避、生活習慣病の発症・重症化予防、生活の質の向上などのために、日中の作業量や健康や栄養状態を踏まえた食事の提供と評価を行うなど、適切な栄養管理を図る体制の整備が急務。

実際に支援活動を行ってきた、埼玉県栄養士会の方のお話では、被災された多くの方々が悲しみ、疲弊しておられ、何と声をかけてよいのかも分からない。

突然、住んでいた家が潰れ、目の前で家族に逝かれてしまった人の気持ちは図り知れない。

活動の指示は、2転3転し定まらない状況。混乱が継続しており、冷静さを失いながらも何とか踏ん張っていた。1日でも早い安心出来る生活を取り戻して頂きたいと願っている。

との事でした。

今回の令和6年能登半島地震の被害は大きく、復興に時間がかかっています。

大きな要因の1つが水道の復旧が大幅に遅れていることが挙げられます。これは前例（過去の災害）との比較からも明らかです。それは何故なのかというと、倒壊した家屋が多く撤去作業が進まないことが1つの原因だという事。余震の大きさからも2次的な被害が続いているという事。

水が使えない生活…。本当に想像を絶する生活であると思います。

各家庭でも水を備蓄していると思いますが、期限が切れたからと言って可能な限り、捨てずに保管しておきましょう。飲水には抵抗があっても、手を洗う、タオルを濡らせて身体を清拭する、洗濯水として利用する、トイレに利用する等、生活の為に十分使用できます。

幸い、電気はほぼ9割復旧しているというので安心しました。また、仮設住宅やトレーラーハウスなどの設置も少しづつではありますが始まったようです。

1日でも早く、被災されている方々が安心して暖かい布団で眠る事が出来ますように。

微力ながら出来る範囲で支援を継続させて頂きたいと思います。

先日、友人の悲鳴を聞きました。3人のお子さんの学費（大学生2人、受験生1人）に加え、ご主人がご病気との事。住宅ローンも残っている中、教育ローンの負担ものしかかっている訳です。

昨今では給料明細を見せ合って、子供は無理だよねと、嘆きあうご夫婦も多いとのこと。

前途で述べた復興の遅延もそうですが、こういう日本をつくっておきながら、少子化を問題視するのは火を放った張本人が火事だ！と騒いでいるようなものだと思うのですが…(≥▽≤)

苦しい時におススメの本があります。岸田奈美著『もうあかんわ日記』泣いて笑ってまた1歩を踏み出しましょう。

